

沖加陽 良いところマップ

【野菜(トマト・きゅうり・いちご等)】

沖加陽自慢の野菜 新鮮 美味しい！

【朝市】新鮮野菜の直売所

○加陽朝市



○水辺公園朝市



【フジバカマ(藤袴)】

秋の七草のフジバカマ 沖加陽交友会が水辺公園と集落センターで大切に育てています。アサギマダラ等の美しい蝶が集まります。



【加陽いちごの里】運営:北但社会福祉事業会

地域との交流を大切に、平成 18 年より、沖加陽区にて運営されています。秋祭り等を通じて交流をしています。



沖加陽の魅力クローズアップ

【桜並木】

年々木が大きく成長し、見ごたえを増しています。毎年春の訪れが楽しみです。



【中山神社】

沖加陽・下加陽の両区の神社です。昔加陽は一つでした。



【加陽湿地・加陽水辺公園】

人と自然の共生を象徴する拠点として整備されました。湿地や水辺に触れる楽しさを体感するとともに、治水と環境について学んでいただくこと、人の交流の活性化を目的として『湿地まつり』を両加陽区で開催しています。

また、中筋小学校等の生き物調査も毎年行われています。



【大市山遺跡・加陽城址】

古代 朝鮮半島から伽耶族が渡来したことが加陽の始まり。歴史ロマンがたくさんつまっています。



出石川右岸から見る加陽城址



【歴史①】加陽の誕生 ～アメノヒボコ伝説と朝鮮伽耶族～

古代の但馬は日本海の「海の道」を通じて大陸との交流が盛んに行われていました。そのことが「アメノヒボコ伝説」として残されています。

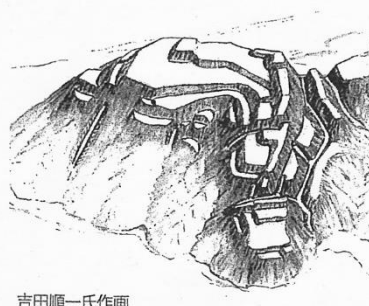
今から約 2 千年前の垂仁天皇の時代(弥生時代)に、朝鮮半島 白羅の国の皇子アメノヒボコが、大和の国を侵攻するため日本に渡って来ました。しかし、侵攻は失敗し、播磨や難波、若狭などを遍歴しながら、出石へ辿り着きました。現在の出石神社のところに本拠地として、アメノヒボコを守る伽耶族の軍隊の居留地が置かれたのが加陽でした。加陽の地名は伽耶族に起因するとも考えられます。また、伽耶族の軍隊は丹後の加悦町(現与謝野町)にも置かれたとも語り継がれています。

伽耶族は山からの清水を利用して開拓し食糧を生産しました。人口も増え集落を形成したものと思われます。伽耶族がもとなる加陽の地の発展が大市山遺跡に残されています。大市山遺跡からは、密教系の山林寺院跡(奈良時代後期)が発掘されています【図1】。当時に朝廷から離れた豊岡の地でこれほど立派な寺院が建立されていたことから、当時の加陽(伽耶)が大きく発展し、力があつたことが伺えます。

【図1】寺院 護摩堂復元図(奈良時代)



【図2】加陽城址(戦国時代)



【歴史②】加陽城址 ～戦国時代の山城～

伽耶族の開拓から始まり、「但馬の国 気多郡 伽耶郷(けたぐん かやごう)」とされました。その範囲は、引野・土渕・加陽・清冷寺・伏・八社宮でした。

中世戦国時代(1500 年代)に中山丘陵北端(加陽小字大市山)に加陽城が作られていました。城域は東西 160m、南北 160mにおよび、その最大の特徴は、主郭南(背後)の尾根を切断する大規模な 2 本の堀切・堅堀と土塁を用いて外敵の侵入を防ぐ強固さを備えていました。【図2】

加陽城は戦国大名の山名家に帰属していました。城主の詳細は分かっていますが、当時の文献には、加陽豊後守(かやぶんごのかみ)との名前が記されています。加陽城主の家老が小西本家であり、伽耶郷の初代組長でした。

【福祉】高齢者の笑顔が集まる場所 ～加陽いちごの里～

平成 18 年沖加陽の古民家を改修し、デイサービスの営業を開始しました。地域に溶け込んだ雰囲気のある建物で過ごしていただいています。

お花見ドライブや盆踊り、敬老会、運動会、いちご喫茶など多くの行事や日々のレクリエーションを通じて、利用者みなさん・職員ともに楽しみ笑顔で過ごしています。また心身機能の維持向上をはかり、日常生活の自立を助けるために全身・部分的な体操を行っています。

ここ最近、感染症対策で、地区のだんじりが中止になり、地域のボランティアのみなさんや中筋小学校交流会の訪問が無くなり、さびしいですが利用者みなさんが楽しみにされていますので、感染症が落ち着いたら、ぜひ来ていただきたいと思います。加陽地区のみなさんのご理解とご協力あつて 15 年間営業してこれました。感謝いっぱいです。ありがとうございます。

加陽いちごの里職員一同

